Transit Gatewayを利用してVPC間で通信してみた

Transit Gatewayは複数VPCや、オンプレミスを単一のゲートウェイで接続可能にするサービスです。 Transit Gatewayの理解を深めるために、Transit Gatewayの用語を交えつつ、シンプルな構成で実際に構築してみたいと思います。

#Amazon VPC

#AWS



2019.10.07







この記事は公開されてから1年以上経過しています。情報が古い可能性がありますので、ご注意ください。

Transit Gatewayは複数VPCや、オンプレミスを単一のゲートウェイで接続することができるサービスです。Transit Gateway登場以前は、接続先が増えるたびにピアリングや、Direct Connect等でフルメッシュ構成が必要でした。

そんなTransit Gatewayが先日、東京リージョンでDirect Connectサポートを発表しました。これによりTransit Gatewayの利用を検討する機会が増えそうです。(体感)

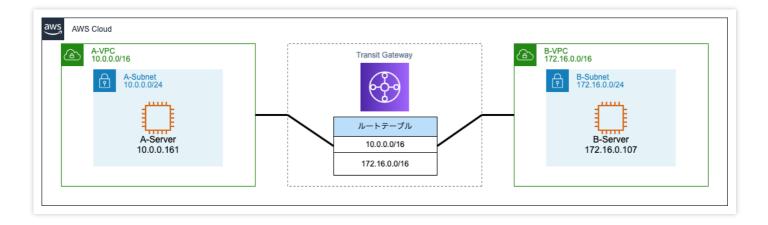
• AWS Direct Connect の AWS Transit Gateway サポートが新たに 6 つのリージョンで利用可能に

本エントリでは、Transit Gatewayの理解を深めるために、Transit Gatewayの用語を交えつつ、シンプルな構成 *1で実際に構築してみたいと思います。

構成&前提

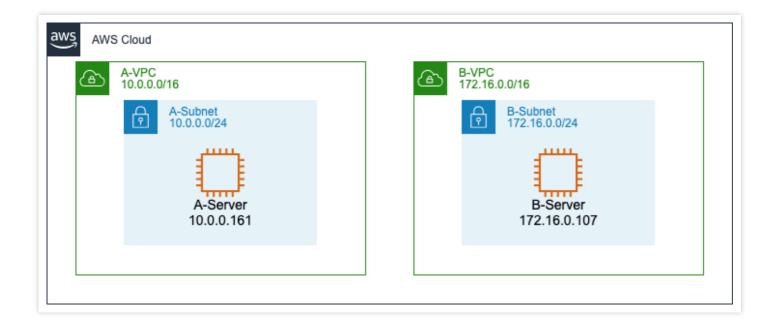
構成

最終的には以下のような構成で、各VPCから双方向に通信を実施してみたいと思います。



前提

以下VPC、EC2が作成済みであることを前提としています。



やってみた

Transit Gateway作成

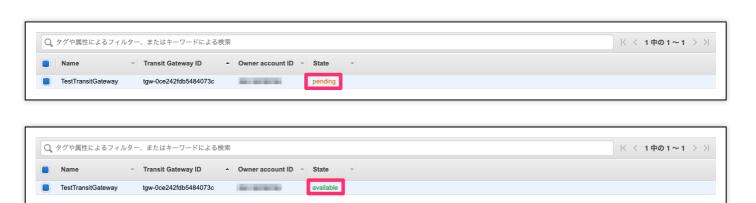
VPCコンソールより[Transit Gateway]-[Create Transit Gateway]をクリックします。

エンドポイント	Create Transit Gateway アクション マ	⊕ † 0
エンドポイントのサービ ス	Q。タグや属性によるフィルター、またはキーワードによる検索	〈 見つかりません 〉 >
NAT ゲートウェイ	このリージョンに Transit Gateways はありません。	
ピアリング接続	最初の Transit Gateway を作成するため、[Transit Gateway の作成] ボタンをクリックします。	
セキュリティ	Create Transit Gateway	
ネットワーク ACL		
セキュリティグループ		
仮想プライベートネ ットワーク (VPN)		
カスタマーゲートウェイ		
仮想プライベートゲート ウェイ		
サイト間の VPN 接続		
クライアント VPN エンド ポイント		880
Transit Gateway		
Transit Gateway		

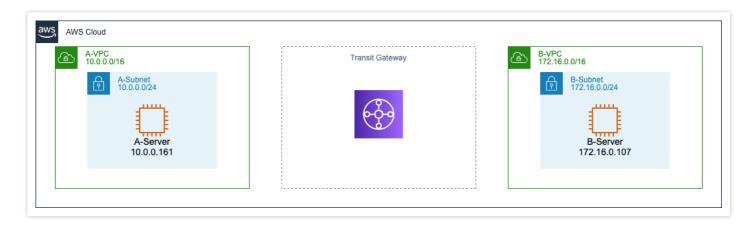
ここでは、アソシエーション、プロパゲーション(後ほど手動で行います)等のデフォルトのチェックは外しました。[Name tag]に任意の名称を指定し[Create Transit Gateway]をクリックします。



「State」が「available」になることを確認してください。



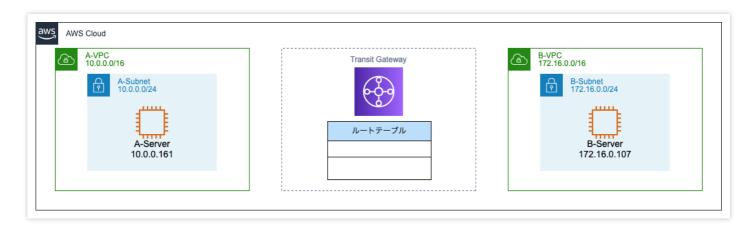
Transit Gatewayが作成できると、以下のようなイメージになります。



• 参考: Create a Transit Gateway

ルートテーブル作成

Transit Gatewayが持つ経路情報テーブル(ルートテーブル)を作成します。このルートテーブルは、通信のネクストホップの決定に利用されます。Transit Gatewayはルートテーブルを複数作成できますが、ここでは単一のルートテーブルを作成します。以下は、ルートテーブル作成後のイメージです。



Transit Gateway作成時にデフォルトのチェックを外していたため、現時点でルートテーブルは存在しません。



「Create Transit Gateway Route Table」をクリックします。



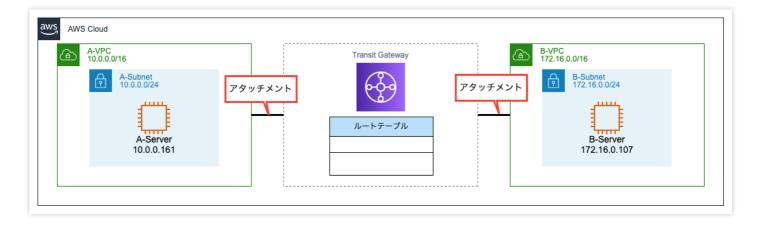
ルートテーブルに任意の名称を付け、さきほど作成したTransit Gatewayを指定します。



• 参考: Create a Transit Gateway Route Table

アタッチメント

VPCやDirect Connect等をTransit Gatewayに紐付ける作業を行います。アタッチメント後は、以下のようなイメージになります。

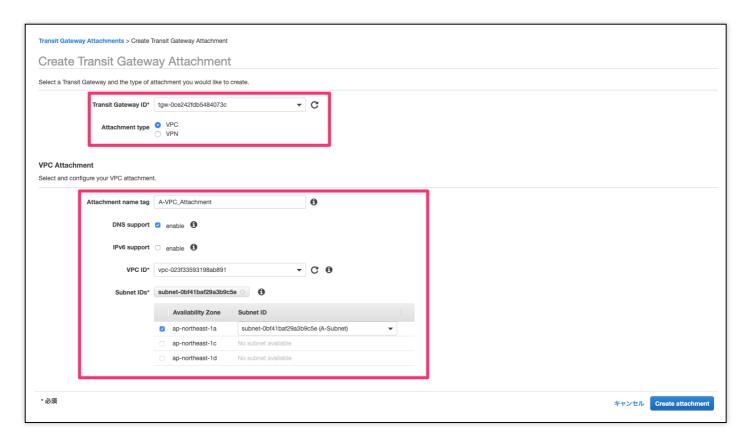


A-VPC

A-VPC(イメージ左)をアタッチメントします。[Create Transit Gateway Attachment]をクリックします。



さきほど作成したTransit Gatewayをアタッチメント先に指定します。アタッチメントするVPC、サブネットを指定し[Create attachment]をクリックします。

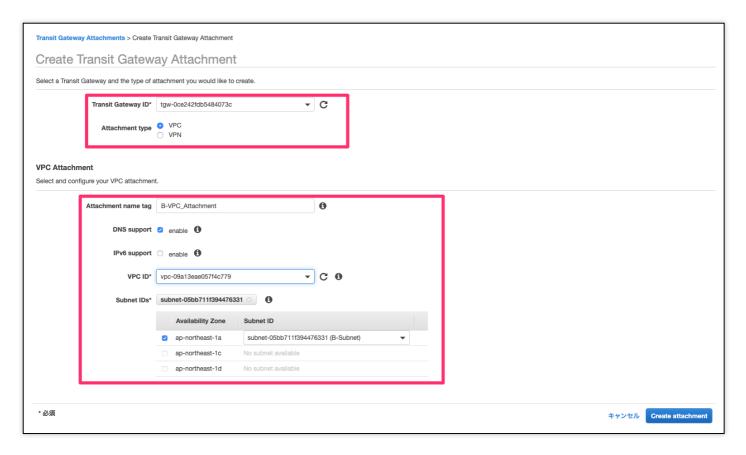


「State」が「available」になるとアタッチメントは完了です。

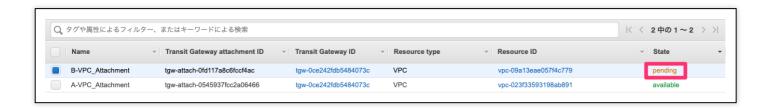


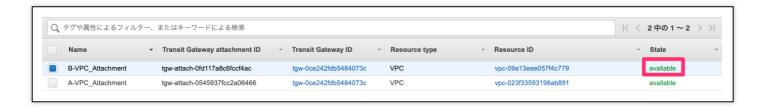
B-VPC

B-VPC(イメージ右)をアタッチメントします。作業手順は同様です。アタッチメントするVPCにB-VPC、サブネットを指定し[Create attachment]をクリックします。



「State」が「available」になるとアタッチメントは完了です。



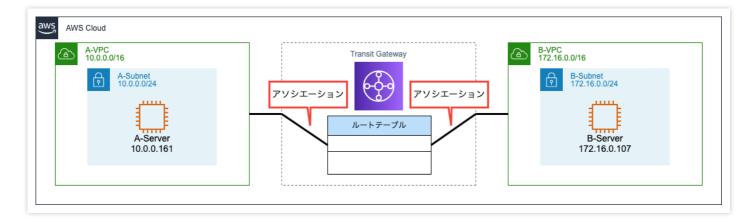


参考:Create a Transit Gateway Attachment to a VPC

アタッチメントは完了しましたが、これだけでは通信を行うことができません。

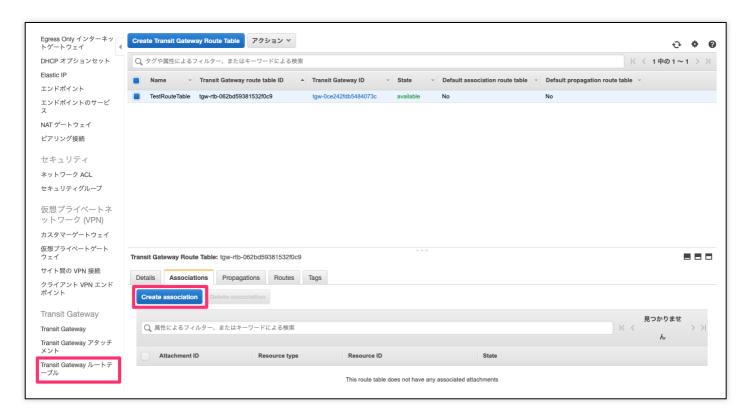
アソシエーション

アタッチメントしたVPC等をルートテーブルに紐付けます。それにより、ルートテーブルにパケットが送信されるようになります。アソシエーション後のイメージです。



A-VPC

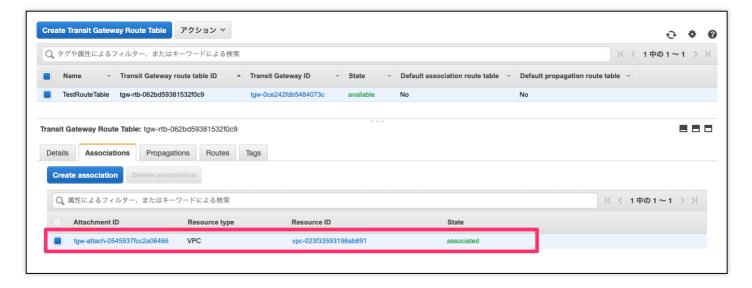
A-VPC(イメージ左)をアソシエーションします。[Create association]をクリックします。



A-VPCのアタッチメントを指定し、[Create association]をクリックします。



アソシエーションが確認できました。



B-VPC

B-VPC(イメージ右)をアソシエーションします。作業手順は同様です。B-VPCのアタッチメントを指定し、[Create association]をクリックします。



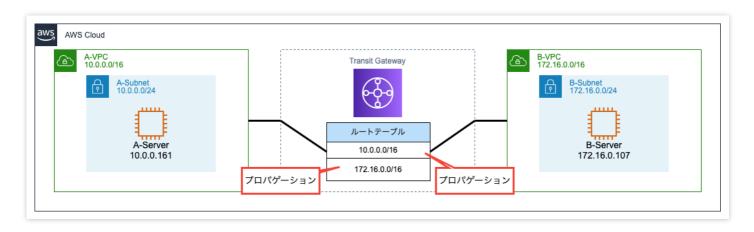
アソシエーションが確認できました。



• 参考: Associate a Transit Gateway Route Table

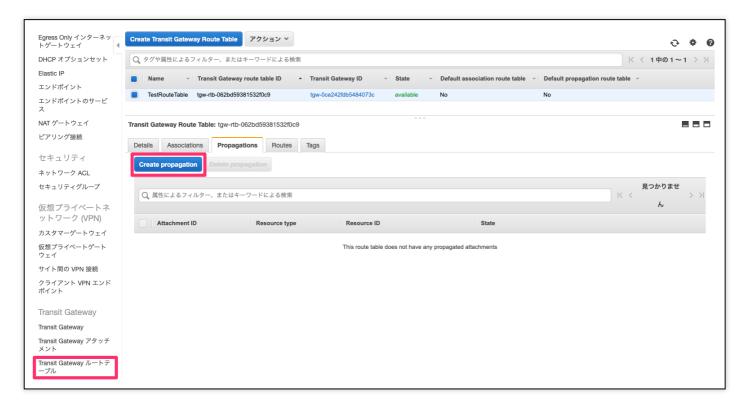
プロパゲーション

アタッチメントしたVPCからルートテーブルに経路を伝播します。アソシエートしたVPCからプロパゲーションされることでルートテーブルが完成し、アタッチメントしたリソース間(ここでは VPC)で通信が可能になります。プロパゲーションが実施後のイメージです。



A-VPC

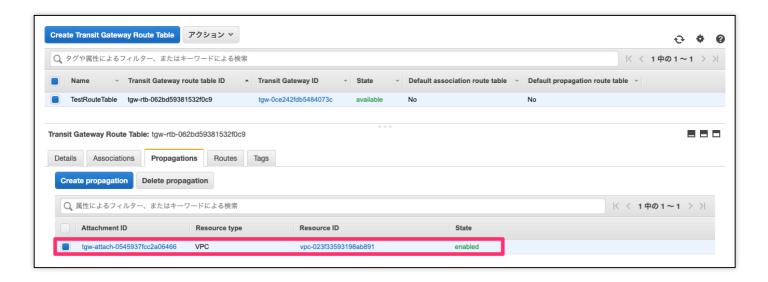
A-VPC(イメージ左)をプロパゲーションします。[Create propagation]をクリックします。

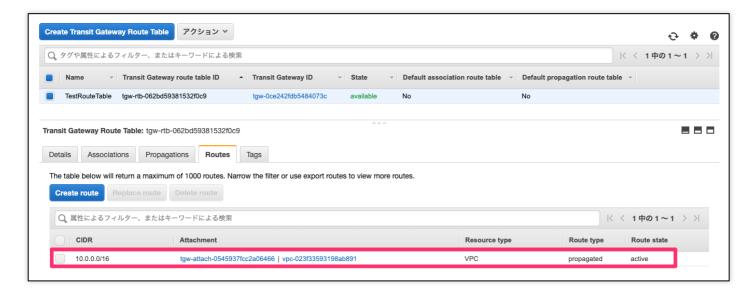


A-VPCのアタッチメントを指定し、[Create propagation]をクリックします。



「State」が「enabled」になると、ルートテーブルに経路が追加されます。



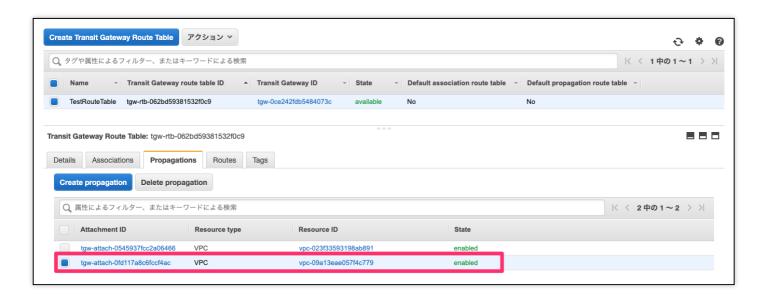


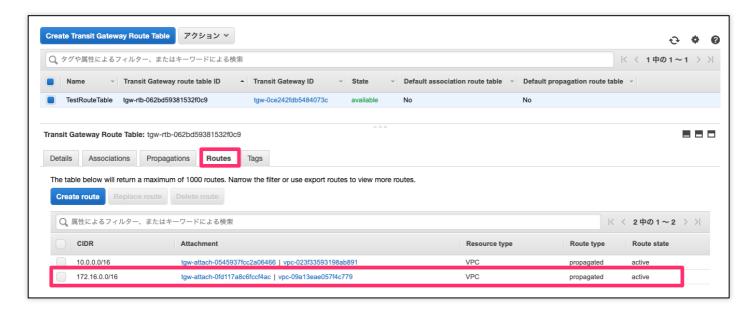
B-VPC

B-VPC(イメージ右)をプロパゲーションします。作業手順は同様です。B-VPCのアタッチメントを指定し、[Create propagation]をクリックします。



「State」が「enabled」になると、ルートテーブルに経路が追加されます。





なお、プロパゲートはアソシエートに関係なく、複数ルートテーブルに設定可能です。

参考: Propagate a Route to a Transit Gateway Route Table

サブネットのルートテーブルに経路追加

通信を行いたい各サブネットのルートテーブルに、Transit Gatewayへの経路を追加します。

A-Subnet

B-Subnetへの経路を追加します。送信先にB-SubnetのCIDR、ターゲットには作成したTransit Gatewayを指定します。



B-Subnet

A-Subnetへの経路を追加します。送信先にA-SubnetのCIDR、ターゲットには作成したTransit Gatewayを指定します。



セキュリティグループ編集

各セキュリティグループで通信を許可します。





アクセス確認

Transit Gatewayにアタッチメントしたリソース間で通信を確認してみます。

A-Server → B-Server

```
[ec2-user@ip-10-0-0-161 ~]$ ping -c 3 172.16.0.107
PING 172.16.0.107 (172.16.0.107) 56(84) bytes of data.
64 bytes from 172.16.0.107: icmp_seq=1 ttl=254 time=0.955 ms
64 bytes from 172.16.0.107: icmp_seq=2 ttl=254 time=0.595 ms
64 bytes from 172.16.0.107: icmp_seq=3 ttl=254 time=0.674 ms
--- 172.16.0.107 ping statistics ---
3 packets transmitted, 3 received, 0% packet loss, time 2018ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.595/0.741/0.955/0.156 ms
```

B-Server → **A-Server**

```
[ec2-user@ip-172-16-0-107 ~]$ ping -c 3 10.0.0.161
PING 10.0.0.161 (10.0.0.161) 56(84) bytes of data.
64 bytes from 10.0.0.161: icmp_seq=1 ttl=254 time=0.992 ms
64 bytes from 10.0.0.161: icmp_seq=2 ttl=254 time=0.639 ms
64 bytes from 10.0.0.161: icmp_seq=3 ttl=254 time=0.759 ms
--- 10.0.0.161 ping statistics ---
3 packets transmitted, 3 received, 0% packet loss, time 2025ms
rtt min/avg/max/mdev = 0.639/0.796/0.992/0.150 ms
```

想定通りの通信が確認できました。

さいごに

Transit Gatewayの理解を深めるためにシンプルな構成で構築を実施してみました。VPC、VPN、Direct Connectなど、接続するポイントが多く想定される場合は、Transit Gatewayの利用を検討してみてはいかがでしょうか。

以上、坂巻 (@nochi251) でした!

参考

- 「Transit Gateway Deep Dive アーキテクチャガイド」 | AWS Summit Tokyo 2019
- Transit Gateways
- 新機能 トランジットゲートウェイでネットワークアーキテクチャをシンプルに

脚注

1. 単一のVPC間通信でTransit Gatewayを利用することはないと思いますが.. ↩